

## 心理学研究科 臨床・発達心理学専攻における教員養成に対する理念等

### 教員養成に対する理念・構想・養成する教員像

#### 【心理学研究科 臨床・発達心理学専攻】

心理学部心理学科においては、「幅広い心理学の基礎知識を習得した上で、現代心理学の主要領域である、実験心理学、応用心理学、臨床心理学、発達心理学に関する専門知識と深い思考力を身につけた、社会に貢献できる人材の養成」を教育研究上の理念・目的として掲げ、教科の指導のみに偏らず、生徒を全人的に理解し、道徳教育や生徒指導の素養も身につけ、真の「生きる力」を育むことができる教員の養成を目指してきた。心理学研究科臨床・発達心理学専攻では、心理学全般に関するこれらの学びをさらに推し進め、「適応事象の基本を身につけた専門的実務者あるいは学術研究者を養成する」ことを理念・目的とする。より具体的には、臨床心理学領域では「心理的適応の困難な個人又は集団に対し適切な援助を行う専門的実務者を養成」すること、発達心理学領域では「重要な発達研究法である観察を駆使した社会的行動の発達過程の追跡、分析を通して、現実事態における諸問題に対して適切な提言を行う実務者を養成」することを目指している。教育には文字通り「教える」側面と「育てる」側面があり、本専攻における学びは後者の視点から子ども理解を深め、現実的な諸問題に対して有効な支援や助言を行う能力を身につけるものである。今日、不登校、いじめ、非行、自殺企図、ひきこもりなど、青少年の心の問題は多様化、複雑化しており、具体的な支援方法を学ぶことはきわめて有意義であるといえる。また、子どもの発達全般を知ることにより、各校種における教育課程の意義がより深く理解できるとともに、保護者への援助の一助ともなり、あわせて、通常学級においても必要とされる特別支援教育の知識や手法を身につけることもできる。さらに、心理学研究科全体としては、「専攻領域や進路の違いを越え、複数の学問分野・領域と連携協力してプロジェクト・チームの一員として課題解決に寄与する人材を育成する」ことを目指している。問題解決のためのチームでの対応は、教育現場においても必要性が高まっており、研究を通してそのような実務的な能力を養うことができる。このように、本専攻では、教科教育はもとより、生徒指導や教育相談、特別支援教育など、生徒のメンタルヘルスと適応に資する具体的な方法をも身につけた、実務的能力の高い教員を養成することができる。

カリキュラムは、「心理学論」「心理学研究法」など領域横断的な研究科共通科目を設け、基本的な原理や、客観的に事象を解き明かし理解するための方法論などを学び、あわせてプレゼンテーションの訓練も行っている。実験・調査などの客観的手法と、面接・観察などのフィールド的手法とを、バランスよく身につけるよう構成されている。障害児・者と精神医学に関する講義、および発達領域のほとんどの講義は専攻共通科目となっている。乳幼児から老年まで生涯にわたる発達と、心身の障害および精神疾患についての適切な知識を身につけ、生きた生徒理解に資することができる。臨床心理学領域は、(財)日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士受験資格取得のための第一種指定校となっており、心理アセスメントと面接の様々な手法を具体的に学ぶことができる。また2018年度からは、新しい国家資格である公認心理師養成カリキュラムも実施しており、大学付属の臨床心理相談室における学内実習のほか、病院など提携する機関における学外実習も一層の充実を図り、個別にきめ細かな指導を行っている。生徒のメンタルヘルスに直接かかわる知識や技術を修得し、即戦力として学校現場に還元することができる。これらに加えて、それぞれの領域で修士論文研究のための指導も行われ、自らの関心に即して計画・立案・研究の実行・解析・発表という一連の課題解決を身につけることができる。

教職課程の設置趣旨（専攻等ごと）

【心理学研究科 臨床・発達心理学専攻】

心理学部心理学科では、入学者のほとんどが人の心や行動に関心を持っており、心理学を学びつつ教職課程も履修できることが、教員を志望する学生にとっての魅力となっている。心理学研究科臨床・発達心理学専攻は、年齢に応じた子どもの発達の課題をより具体的に理解し、アセスメントや相談の技術を身につけ、実務的な専門性が高く多様なニーズに対応できる教員を養成する場として適切であり、教職課程設置の意義が認められると考える。

《高等学校教諭専修免許状：公民の設置趣旨》

心理学研究科 臨床・発達心理学専攻においては、まさに学齢期から青年期にかけての児童生徒の心の理解と対応について、現実に即したカリキュラムが用意されている。

臨床心理学領域においては、「臨床心理面接特論A（心理支援に関する理論と実践）」「臨床心理面接特論B」にて理論を学び、「臨床心理実習A 1（心理実践実習）」～「臨床心理実習A 4（心理実践実習）」にて面接を体験し、「臨床心理実習B 1（心理実践実習）」～「臨床心理実習B 3（心理実践実習）」にて個別指導を受けて、面接に対する理解を深めつつ、技能を向上させることができる。心理面接の理論と手法については、多彩な講師による特論を用意し、特定の立場からの実践に偏らないよう配慮している。「臨床心理査定演習A（心理的アセスメントに関する理論と実践）」「臨床心理査定演習B」では、アセスメントの様々な手法について、理論的背景の理解、実施、分析、所見の作成まで一連の演習を行う。「学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」では、学校現場で起こる不適応や問題行動と、スクールカウンセラーの実務について学ぶことができる。今日、スクールカウンセラーの配置校が増加し、その仕事を理解して適切に連携できることは、教員のスキルとして重要になると思われる。「臨床心理学外実習A（心理実践実習）」「臨床心理学外実習B 1（心理実践実習）」～「臨床心理学外実習B 3（心理実践実習）」では、精神科病院、療育センター、適応指導教室、附属高校など多様な分野の協力機関において、実務的な実習を行う。「臨床心理学外実習C（心理実践実習）」では、児童相談所、少年鑑別所など、青少年にかかわる専門機関を見学し、見聞を広めている。学校における問題には、社会、経済、文化、家庭環境など複合的な背景があるが、実社会において実習を行うことにより、より広い視野から問題解決を考える姿勢を養うことができる。発達心理学領域では、「人格発達心理学特論」で子どもの気質とパーソナリティの発達について、「社会・情動発達特論」で社会性の発達について、テーマ別にさらに詳しく学ぶことができ、「臨床発達心理学特論」では、フィールドワークを通して現場と研究を結びつける視点を得ることができる。また、人間に直接かかわる実践や研究を行うため、研究科としても専攻としても倫理に重点をおいて教育を行っている。

以上のように、公民科の専門性のうえに、より専門的で実践的な問題解決能力を備えた教員を養成するために、本専攻における教職課程（専修免許状）設置の意義があると考えられる。